

イーストライスト トランスポート

商流・物流を一体化

貿易代行子会社を活用

イーストライストトランスポート(株)代表取締役社長、大阪府中央区)は商流と物流の一体化によるサービス向上を進めている。昨年8月に設立した貿易代行子会社を活用。調達・貿易代行と国際輸送、検品などを組み合わせることにより、特に中小輸入者の貿易業務の負担を軽減する。また、パレルなど輸入貨物を主力としてきた同社だが、輸出貨物への取り組みを本格化し、輸出自社運搬を7月から上海、青島向けにスタートする。



東海岸社長

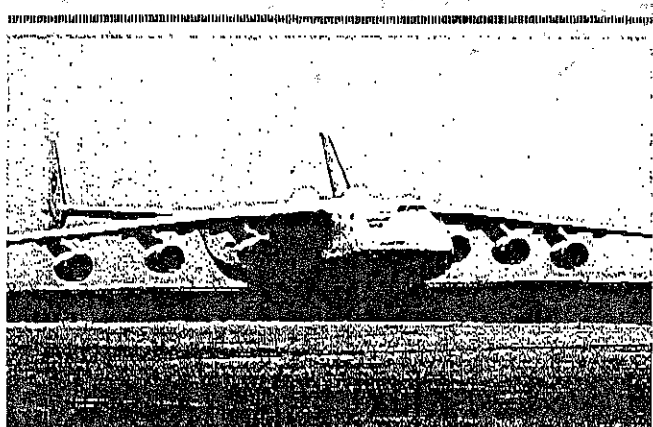
小輸入者が中国の複数拠点から調達するケースでは、イーストライストレーディングが中国側で商品を買取り輸入するなど、調達・迅速な運付が可能だ。「貿易業務を代行し、輸入者から調達するケースでは、省く貨物が混雑で遅れたため、物流効率を大幅に削減でき、輸出側には船積の迅速な運付が可能だ。」

「商品を組み合わせる場合に効果的だ。なお、イーストライストでは為替、品名などのリスクは取らない。貿易代行での売り上げは09年(8.12億)で1億増、今年度は1.4億増を計上しており、今後も拡大を多見通し。さらにイーストライストレーディングは内販権も持つのが特徴。現時点で内販権を利用した具体的な案件はないが、中国での販路を巡る中小企業者や、現地百貨店などと協議中だ」という。

輸出拡大では、これまであまり手がけていなかった自動車部品、電機部品、機材などを中心に、新たな販路を開拓していき、顧客を開拓していく方針。また、沿岸部を絡む同社の日本食品の輸出も増えるなど見ている。「今までは生鮮財輸入が中心だったが、今後は日本の消費財を(中国)内で消費するために、輸入するケースが増える」と(同)。7月の上海向け、同社は上海向けに、年度内にも開始する予定だ。輸出領域での起用船社は上海船江シンペン(上海航路)、SITC(可也航路)。同社長は「11年度の香港向け開港も視野に入れている」とも。

イーストライストトランスポートは日中間のパレル物流を主力とする中略NVOCC。中国では上海に貨運代理免許を持つ独資法人「上海東海岸貨物運輸代理有限公司」を運営し、上海本社に加え、深圳、寧波、青島、廈門に分公司、天津に事務所を置く。また、大連でも友好企業を通じて営業を行っている。沿岸部主要都市への展開が一層進んだことになり、次の成長戦略に軸足を移すことになった。

昨年8月、上海に貿易代行会社「イーストライストレーディング(中国社名:上海東海岸貿易代理有限公司)」を設立した。日本の中



アントノフAn-225

中部空港に飛来

最大離陸重量が600tもある世界最大の大型輸送機、アントノフAn-225が21日午後、中部国際空港に飛来した。写真は給油のために同空港に寄ったもので、貨物の積み降ろしはなかった。同機は翌22日未明、米国・アンカレッジ空港に向けて飛び立った。

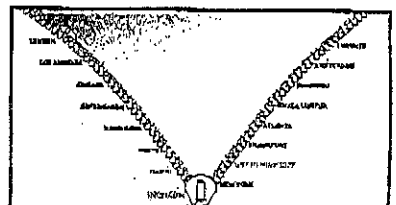
同機はウクライナ語で夢や希望を意味する「ムリヤ」の愛称で親しまれている。今年2月に防衛省が大地震に見舞われたハイチへの復興支援策として重機類を輸送する目的でチャーターし、そのとき成田空港に飛来して以来、2度目となる。ムリヤは全長約84m、全幅約88m。最大離陸重量は通常「ジャンボ」と呼ばれるB747-400型機の約1.5倍(600t)を超える。中部空港に降り立ったその巨大な機体はスカイデッキから同機を眺めた人々の産汗を抜いた。

高速無料化で 実験予算拡大 前原国交相

国土交通省の前原誠司大臣は22日の会見で、2011年度の高速道路無料化社会実験の予算について、今年度の1000億円を下回る要求を検討していることなどを明らかにした。同相が来年度の無料化社会実験の予算規模に言及したのは初めて。一方、同相は航空行政について、日本におけるロケット・宇宙開発(ROCS)参入に前向きな考えを示した上で「ROCS参入を後援

きょうの紙面

2面 キヤセイ航空
運賃修復を推進
3面 小名浜港利用のいわきオール



流の風を伴、

トータル

性、コスト競争力は相反す

か、早急な入材を

とする政策が必らず、公衆の見直しを含めて、とする。同相は、高速道路の無料化政策について、個人から他の交通体系に波及し、段階的に原燃料化する」との方針を示した。同相は、段階的に原燃料化する」との方針を示した。同相は、段階的に原燃料化する」との方針を示した。